

平成18年度

## 病害虫発生予察注意報（第4号）

平成18年8月2日  
茨城県病害虫防除所

### 果樹を加害するカメムシ類の多発生が続いています

引き続き果樹園内への飛来に注意して下さい！

作物名：果樹類（ナシ、カキ、リンゴ、ブドウ等）

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

#### [ 発令の内容 ]

発生量：多い

発生地域：県下全域

#### [ 発令の根拠 ]

7月下旬現在、ナシでの被害果率は、平年より高い。

7月下旬現在、チャバネアオカメムシの予察灯（笠間市及びかすみがうら市）の誘殺数は多い状況が続いており、多発生し被害が発生した平成13年と同様の傾向である（図1）。また、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数も平年より多い（データ略）。今後も果樹園への飛来が多い状態が続くと考えられる。

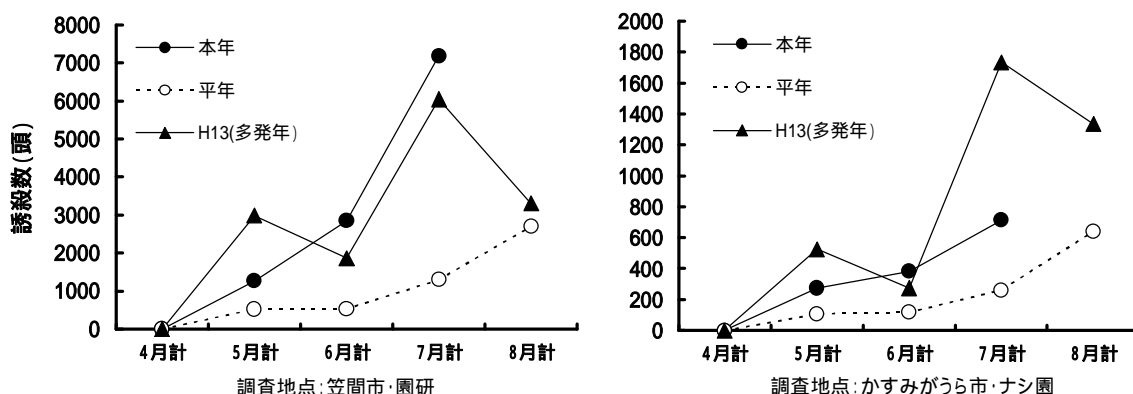


図1 チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数の推移

#### [ 防除対策 ]

果樹園内でカメムシ類の発生を確認した場合、収穫前日数に注意して、表1~3を参考に薬剤防除を行う。

各薬剤とも直接虫体にかかれば効果は高いが、効果の持続期間は合成ピレスロイド系、有機ケイ素系、ネオニコチノイド系薬剤で5~10日程度、有機リン系薬剤で2~3日程度である。また、ネオニコチノイド系薬剤は、忌避効果が高い。

合成ピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くので注意する。

薬剤防除は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

薬剤を散布する場合は、農薬のラベルに書いてある農薬の使用基準を守るとともに、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。

ナシのナシヒメシンクイについては、8月1日付けで病害虫情報No.4を発表しました。表1の薬剤については、ナシヒメシンクイにも登録があるので、ナシではナシヒメシンクイも同時に防除が可能です。

表1 ナシのカメムシ類に登録のある主な農薬（平成18年 7月 26日現在）

系統	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の 総使用回数
合成ピレスロイド	スカウトアブル	1,500倍	前日 - 5	トフロトリン - 5
	ロイター水和剤	1,000倍	前日 - 2	フェンピロトリン - 2
ネオニコチノイド	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	前日 - 3	フェネキサム - 3
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日 - 3	ジメチアトリン - 3
	アルパリン顆粒水溶剤	2,000倍	前日 - 3	ジメチアトリン - 3
有機ケイ素	MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	14 - 2	シフルオフェン - 2

表2 カキのカメムシ類に登録のある主な農薬（平成18年 7月 26日現在）

系統	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の 総使用回数
有機リン	スミオン水和剤 40	800~1,000倍	45 - 3	MEP - 3
	ディプレックス乳剤	1,000倍	14 - 3	DEP - 3
合成ピレスロイド	アデント水和剤	1,000倍	7 - 3	アクリナトリン - 3
ネオニコチノイド	アトマイヤー水和剤	1,000倍	7 - 3	イミダクロプリド - 3
有機ケイ素	MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	14 - 2	シフルオフェン - 2

合成ピレスロイド

表3 リンゴのカメムシ類に登録のある主な農薬（平成18年 7月 26日現在）

系統	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の 総使用回数
有機リン	スミオン水和剤 40	800~1,000倍	30 - 3	MEP - 3
	スプラサイド水和剤	1,500倍	30 - 2	DMTP - 2
有機ケイ素	MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	14 - 2	シフルオフェン - 2